令和元年度第3回 鳥取支部評議会の概要報告(確定)

開 催 日	令和2年1月17日 金曜日 午後1時30分から3時30分
開 催 場 所	しいたけ会館 連理の間
出 席 者	藤井評議員(議長)、竹中評議員、河毛評議員、田中評議員、荒川評議員、 嶋田評議員、細田評議員 【順不同】
議 題	<p>1 令和2年度 保険料率について</p> <p>2 令和2年度 支部事業計画(案)について</p>
議 事 概 要 (主な意見等)	<p>○議題1 令和2年度 保険料率について</p> <p>資料に基づき事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1：令和2年度鳥取支部保険料率について ・資料2：令和2年度鳥取支部保険料率について（支部評議会における主な意見） ・資料3：インセンティブ制度に係る平成30年度実績 <p>≪主なご意見と回答≫</p> <p>① 令和2年度保険料率について</p> <p>【事業主代表】</p> <p>意見書を提出していない支部が13支部ある。料率に関心がない支部が多いのか。</p> <p>【事務局】</p> <p>保険料率の在り方を中期で考え 10%維持するという本部の考えに同調しているため意見がない、もしくは自支部の保険料率は下がるので、特に意見を出していない、というのが意見書を提出していない理由ではないかと思われる。保険料率に関心がないというわけではない。</p> <p>【事業主代表】</p> <p>収支見通しや保険料率に関するシミュレーション等、元となるデータの出し方によって、10%維持の捉え方も変わってくる。赤字が続くので10%以上にしなければいけないというデータを元々見せられていると、料率を上げられるくらいなら 10%維持でもかまわないと感じてしまう。</p> <p>【事務局】</p> <p>両論併記も合わせると28支部が10%維持の姿勢、9支部が引き下げの姿勢。「国庫補助のことを考えると引き下げは難しいので 10%維持もやむなし」「10%維持をできるのであれば維持すべき」等の意見があるので、数字だけでは判断できない部分もある。</p>

【事業主代表】

積極的な 10%維持と消極的な 10%維持があるのではないか。

【事業主代表】

10%が 9.99%になるのを見ると保険料負担が下がったように感じるが、10 万円でみると 10 円しか下がらない。ここで喧々諤々と議論する内容ではないようにも感じる。

【事務局】

鳥取支部の保険料率ではなく、平均保険料率 10%を維持するか、という話。

【事業主代表】

全国平均 10%を維持・堅持するという考えは将来的にも必要。今後、団塊の世代が後期高齢者に移行し、医療費の伸びが増えていく。この医療費の伸びをどのように抑えるか。診療報酬の引き下げを含めて政府がもっと真剣に考えていかないといけない。

【学識経験者】

昨年の料率との比較も大事だが、長いスパンで見ることにも必要。積立金も積みあがっている現状、今すぐ色々と適正化対策を行い、医療費を抑制しないといけないという状況ではない。インセンティブ制度の導入により医療費を抑制する制度が始まり、結果的に今回の数字になった、ということは評価できるのでは。年齢構成の上昇や、現在の人口維持ができなくなると保険料収入に影響がでてくる。景気に左右される賃金に甘い見通しは立てられない。金額にすると 10 円、20 円の世界かもしれないが、インセンティブ制度等でさらに 10 円、20 円下がる可能性があることだけでも意義があると思う。

【学識経験者】

鳥取支部の医療給付費の伸びが総報酬額と比較して伸びているのが気になる。年齢調整について、現在鳥取支部は恩恵を受けているが、これからは都会でも高齢化が進み、都会と地方の差がなくなってくると考えられるので、医療給付費の伸びをどう抑えるのかが重要になってくる。診療報酬や薬価についても考えないといけないが、加入者はどのような疾病で診療を受けているかを考える必要がある。特に働いている人の精神疾患は大きな問題になっており、実際に多くの薬を飲んでいる人がいる。ジェネリック医薬品に切り替えることで医療費は下がるが、薬の量自体を変えれば色々と変わっていくはず。どこの医療機関で診療を受けていて、薬をどれくらい処方されているのかを、鳥取支部の事例で分析したほうがよいのでは。

【被保険者代表】

これからの医療費の伸びが心配。保険制度を維持し続けることが大事。

【事業主代表】

国庫補助率を国が下げてしまえば、それまでの話。国の方針としてどう考えているのか。一つの歯止めとして10%があるだけでは。国が10%を守るという指針を出してもらって、我々評議員がそれに協働しましょう、ということならよいが、そうではない状況に違和感がある。国が加入者だけに問題を押し付けているのでは？

【事務局】

大きく報道はされていないが、理事長および理事が国の各種審議会等で意見発信を行っている。また、他の保険者と共同で国に要望書を提出するなど、様々な取り組みを行っている。

【事業主代表】

もう一度原点に戻る必要がある。国民の健康や生命、財産は国が守るべきもの。この部分から話をしていけないといけない。段々と逸脱してきているのが現状。

【学識経験者】

介護保険料が1.73%から1.79%に上昇する。鳥取支部の健康保険の保険料率は下がるが、結果的に負担は増えるということか。

【事務局】

40歳から64歳までの方は健康保険料と一緒に介護保険料を納付いただいている。結果的に負担は増えることになる。

【議長】

令和2年度の保険料率について、支部長意見を本部に提出するとのことなので、説明いただきたい。

<支部長より支部長意見(案)を説明>

【事業主代表】

生活習慣病の定義がよくわからない部分がある。医療費増加との関係はどうか。危機感を煽っているだけのような気もする。

【学識経験者】

生活習慣病予防健診を受診することで、医療費の増加に影響はあるのか。

【事務局】

短期的には医療費は増加するが、そもそもの目的は高齢者医療を抑えるため、働いている時か

ら健診を受診して重症化を予防しましょう、というもの。長期的な視点で見ていただきたい。

【学識経験者】

血圧が180～200の人がたくさんいる。また、血糖値が200を超える人も多くいるが、このような人はそもそも医療機関を受診していない。重症化してから受診することで、結果的に多額の医療費がかかってしまう。これらの人に健診を受診してもらい、治療を受けるよう行動変容を促すのが目的。

【事務局】

健診を受診していない人に健診を受診していただく取り組みが最重要課題である。健診を受診して数値が悪い方には医療機関の受診勧奨を行っている。

【学識経験者】

支部長意見は協会けんぽの中だけのものか。国に対して意見をすることはできるのか。

【事務局】

支部長意見に評議会意見を添えて本部に提出する。また、国への意見発信は理事長以下、理事・本部が様々な会議で行っている。

② インセンティブ制度について

【学識経験者】

特定健診等の実施率の得点が島根支部と比較して、大きく下回っている。何か原因があるのか。

【事務局】

偏差値のためグラフが下向きになっているが、健診実施率でみると、鳥取支部54.9%・島根支部65.6%。鳥取支部も全国平均よりは上であるが、島根支部はかなり率がいい。何が原因で差があるかは、わかっていない。

【学識経験者】

県民の気質も両県ではあまり変わらないように思う。隣の県でもあるので、色々と聞いてみてはどうか。

【事業主代表】

鳥取県内の医療機関は健診受診者の受け入れ数が少ない。ある医療機関に電話で健診の申し込みをしたが、一日で一年間の予約が埋まり、私自身も予約を取ることができなかった。個人の

小規模医療機関では胃カメラがなかったりする。健診を受診しにくい環境であると感じる。

【事務局】

県内の大規模健診機関でも、受診者受け入れの枠が少ない状況。市町村の集団健診が2月位まであり、人手がかかっている。健診機関を増やす等の対策が必要であるが、設備が整っている健診機関が少ないことがネックとなっている。また、今年度は県外の健診機関と契約しバス健診を行ったが、受診率はよくなかった。

【学識経験者】

生活習慣病予防健診を受診できる健診機関を増やすために、個別に話はしているのか。何件かの大規模健診機関が、受診できる健診機関一覧に載っていない。健診機関が断っているのか。

【事務局】

一部の健診機関については、以前は契約していたが過去に何らかの経過があり、現在は契約を行っていない。

【学識経験者】

契約健診機関を増やして、加入者が健診を受診しやすい環境にしていきたい。協会けんぽ加入者の健診受診者が増えても、他の保険(国民健康保険等)の加入者がしわ寄せを受けて健診を受診できなければ、健康保険制度全体で見ればよくないこと。

○議題2 令和2年度 支部事業計画(案)について

資料に基づき事務局より説明

- ・資料4. 令和2年度 支部事業計画(案)
- ・資料5. 後発医薬品の使用促進その他の保険者としての機能を発揮するための取組
- ・資料6. 令和2年度 支部事業計画 KPI
- ・資料7. 支部事業計画新旧対照表

【事業主代表】

ジェネリック医薬品の使用率は高くなっているが、新薬を開発した会社は利益を得ることができるのか。

【事務局】

ジェネリック医薬品は特許期間が終了した後に販売するもの。新薬の特許が切れた後にジェネリック医薬品との競合が発生する。

【学識経験者】

「支部事業計画新旧対照表」で、保険証の回収率が前年目標を下回っている。他の項目は前年以上の目標を設定しているのに、この部分のみ前年度目標を下回っているのはなぜか。

【事務局】

前年度は実態よりも高すぎる数値を設定していたため、今回は現実的な数値を設定した。

【学識経験者】

返却しなかった保険証は使用することができるのか。

【事務局】

誤って使用した場合は返納金となり、医療費を返還していただくことになる。

【学識経験者】

分析は鳥取支部のデータだけで行っているのか。近県や中国地方の県と比較しているのか。

【事務局】

鳥取支部のデータだけではなく全国平均と比較を行っている。鳥取支部はどの部分が強いのか、逆にどこが弱いのか比較・分析を行っている。

【学識経験者】

健診の受診勧奨で何か特別なことを行っているか。

【事務局】

今年度は市町村と共同で事業所訪問を行った。また、ナッジ理論を取り入れて勧奨チラシの作成を行う。

【事業主代表】

目標の数値だけが載っているが、今年度の実績はないのか。昨年資料には実績が載っていたと思うが。

【事務局】

実績値については、後日提示させていただく。

○「その他」 中国・四国ブロック評議会の報告について
参加評議員より概要を報告

特記事項	特になし
・傍聴人：なし	
・次回評議会の予定：令和2年3月	